診療室

口蹄疫，あれから1年

馬場　崇[†]（ばば動物病院・宮崎県獣医師会会員）

大動物診療に携わって30年，一番の出来事は言うまでもなく去年発生した口蹄疫である．わが町新富町も偶蹄類の家畜，ペットのすべてを失った．4月20日の第1例目の確認から発生は拡大の一途をたどり，消毒の徹底，人，車の出入りの制限，不要不急の外出等の自粛などあらゆる防疫対策を蹴散らして拡大していった．発生の渦中にいながら何もできずに手をこまねいてみているだけのむなしい日々．往診禁止令のために診療所での缶詰め状態が続いた．獣医師として発生の状況だけは知っておきたいと情報収集に明け暮れたが，それは発生のすさまじさを知らされただけで，それを食い止める力はなく何とも歯がゆい思いをした．渦中にいた我々はどこまで拡大するのだろうと恐怖におののいていた．このままいくと児湯郡の全域どころか南九州が全滅すると感じた．この現実の中自分たちにできることは何か，出た答えがワクチン接種とその後の殺処分に参加すること．防疫措置が遅れている中この現実を受け止めること以外に選択の余地はなかった．だが農家の心情を思うと気が重かった．実際にワクチン接種がなされ，発生が減少し，殺処分が行われてようやく終息した．10年前，宮崎県で口蹄疫が発生したがこのときは3件の発生で終わった．発生当初，家畜がいなくなり仕事がなくなると覚悟を決めたが，そんなことは全くなかった．このときの驚くほどの早期終息が口蹄疫とはこんなものだと勘違いさせた．この成功体験が今回の初動防疫体制の徹底を遅らせ，風評被害の抑え込みに力を注がせてしまったのではないかと悔やまれた．今回の経緯の中で私自身も反省している．当時私は口蹄疫に対する備えはほとんどなく，日常の診療時にも口蹄疫のことは頭になかった．自分になかったのだから農家に指導などしていない．専門家として失格だった．また，もし今回私が最初に口蹄疫に遭遇していたならば口蹄疫だと気づくことができたであろうか．そればかりか感染拡大の手助けをしていたのではないかと空恐ろしく思う．また私は当地で口蹄疫が流行したにも関わらず口蹄疫を実際に目にしていない．百聞は一見にしかずというがその一見をしていない．我々臨床家は実際に経験した疾病に対してはうまく対応できるが，未経験のものに対しては正しく診断しがたいものだ．全国には私を含めこのような未経験の獣医師，農家がほとんどだ．現在，口蹄疫の症状は写真などで確認できるが，それらは口腔内・鼻腔内に水疱やび爛が顕著にみられるものが多い．しかし発生初期に口蹄疫に遭遇した獣医師は，症状はあれ程顕著ではなく食欲不振と流涎だけで水疱も認められなかったと話していた．発生初期はウイルス量が少ないせいか症状は極めて分かりにくいとのことだ．このことは次回発生時の早期発見に向けて最も教訓とすべきことだ．畜産に関わっている人々すべてが口蹄疫を正しく理解し立ち向かっていくべきだ．

現在，畜産経営を再開した農家が5割強，飼育頭数が3割から4割といったところか．高齢の農家は再開を断念し，若い農家でも疾病に対する恐怖心，畜産を取り巻く状況の悪化を予想し再開を躊躇している．また県は農家に対して衛生管理を充実させ適正規模での飼育を推進している．さらに再度発生した時に備えて埋却地の確保を求めている．このことも再開にブレーキをかけている．しかし，これらはいざという時のための感染防止や拡大防止には不可欠なことだ．このような状況のため仕事も2割程度にしか回復していない．復興への道のりは厳しいようだ．現在の診療の様子だが，往診時に農家ごとにつなぎを着替え，ブーツカバーをして手袋をして家畜との直接の接触を可能な限りさけている．また消毒薬を使用し次の農家に病気を伝播させないように務めている．農家の防疫意識であるが再開当時はかなり高く，出入り口に消毒施設を設置し，道路に石灰をまき，踏込槽の設置等消毒は徹底されていたが，今は，ばらつきがみ

馬場　崇

—略　歴—

1981年　麻布大学卒業
同　　年　宮崎県児湯農業共済組合に勤務
1997年　宮崎県児湯郡新富町にてばば動物病院を開院

† 連絡責任者：馬場　崇（ばば動物病院）
〒889-1411　児湯郡新富町富田2-79　☎0983-33-6880　FAX 0983-33-6883　E-mail : babakun@mnet.ne.jp

られ風化しつつあると感じる．現在口蹄疫はわが国には存在していないはずだが，いつ侵入してもおかしくない状況である．我々自身が忘れることなく，農家を正しく指導し獣医師としての責任を果たしたい．

1年が経過したが，いまだにどのような順序で広がったのか，風との関係を調べる日々が続いている．結論は出るのか出ないのか分からない．臨床歴30年，家畜の診療も体になじみ，また子育てもようやく終えてこれから好きなことでも始めようかと思っていた矢先の出来事だった．これにより生活は一変したが，これもまた人間万事塞翁が馬と考え，いたるところに青山ありとの思いで暮らしていきたい．

最後に口蹄疫でお世話になった全国の皆様に深く感謝申し上げたい．